

『一百條』・『清文指要』対照テキスト(22)

竹越 孝

<はしがき>

付録として、原刊本系『清文指要』の巻上をなす「字音指要」について、満洲語のローマ字転写と逐語訳、及び漢字の翻刻を記す。この部分は『一百條』及び『新刊清文指要』には存在しない。

本篇は全15丁、版心上部に「字音指要」、上魚尾の下に「上」とあり、版心の下部に丁数が記される。他篇とは体裁が異なって毎半葉4行、漢字は基本的に文言で記され、*ejen*(皇上)、*gurun*(國家)、*wesimbuhe*(奏)、*hese*(旨)、*han i araha*(御製)、*enduringge*(聖)等の単語は通常の框格よりも高い位置に抬頭されている。また、用例の出典にあたる部分は小字双行で記されており、本稿では句番号に*を付す形で示した。なお、満洲語 *ni* を「尼伊」、*de* を「德額」のように、満洲語の音節を表す際に漢字を横に配置する(実際のテキストでは右が「尼」「德」、左が「伊」「額」)のは、乾隆年間に盛行した、いわゆる「三合切音」の表記法である。

<字音指要>

- 1 *te tuktan tacime manjurara asihata de ulhibuci acara.*
今 初めて 学んで 満洲語を話す 若者達 に 分からせる べき
今 叙明 初學 清文 少年 (上 1a1-2)
- 2 *udu gisun be getukeleme arafi.*
何 語か を はっきり 述べ
應知 數語 (上 1a2-3)
- 3 *giyangnara urebure de ja obuhobi.*
講じる 復習するの に 容易 にしている
以便 講習 (上 1a3-4)
- 4 *manjurara de. i sere hergen. ni sere hergen be ilgame hūlara. gisurerengge*
満洲語を話す 時 *i* という 文字 *ni* という 文字 を 区別して 読む 話すこと
讀説 清語 分別 伊脚 (上 1a4-1b1)

- 5 umesi oyonggo.
大變 重要
最爲緊要 (上 1b1-2)
- 6 erebe saci acambi..
これを知る べきだ
應知之 (上 1b2)
- 7 juwan juwe ujui dolo. damu duici ujui hergen i fejergi de.
十二頭の 内 ただ 第四頭の 文字の 下で
十二字頭内 惟第四頭字下 (上 1b3-4)
- 8 i seme araci acarange be.
i と 書く べきものを
當寫伊者 (上 1b4)
- 9 gemu i seme aracibe.
みな i と 書いても
雖皆寫伊 (上 2a1)
- 10 ni seme hūlambi. gisurembi..
ni と 読む 話す
却讀脚說脚 (上 2a1)
- 11 duibireci.
例えば
譬如或讀或說 (上 2a2)
- 12 ejen i kesi.
君の恩
皇上的恩 (上 2a3)
- 13 gurun i hūturi seme hūlara gisurere adali..
国の福 と 読む 話す よう
國家的福 (上 2a4)
- 14 ereni badarambume gamame
これで 広げて 処理し
推而廣之 (上 2b1)

- 15 **duici ujui hergen i fejergi de.**
 第四頭の文字の下に
 第四頭字下 (上 2b1-2)
- 16 **yaya i seme araci acarangge be.**
 凡そ i と 書くべきものを
 凡當寫伊者 (上 2b2)
- 17 **gemu i seme aracibe.**
 みな i と書いても
 皆寫伊 (上 2b3)
- 18 **ni seme hūlara. gisurengge**
 ni と 読む 話すこと
 讀脚說脚 (上 2b3)
- 19 **yooni ere songko..**
 尽く この 模範
 悉本此 (上 2b3-4)
- 20 **sunjaci ujui hergen i fejergi de..**
 第五頭の文字の下に
 第五頭字下 (上 3a1)
- 21 **i seme araci acarangge be.**
 i と 書くべきものを
 當寫伊者 (上 3a1-2)
- 22 **gemu ni seme arambi.**
 みな ni と 書く
 皆寫脚 (上 3a2)
- 23 **inu ni seme hūlambi. gisurembi.**
 また ni と 読む 話す
 亦讀脚說脚 (上 3a2-3)
- 24 **duibuleci.**
 例えば
 譬如或讀或說 (上 3a3)

- 25 wang ni dukai hiya.
 王 の 門の 護衛
 王子 門上 護衛 (上 3a4)
- 26 gung ni harangga hafan seme hūlara. gisurere adali..
 公 の 所属の 官 と 読む 話す よう
 公 屬下 官員 (上 3a4-3b1)
- 27 ereni badarambume gamame.
 これで 広げて 処理し
 推 而 廣 之 (上 3b1)
- 28 sunjaci ujui hergen i fejergi de.
 第五 頭の 文字 の 下 に
 第五 頭 字 下 (上 3b2)
- 29 yaya i seme araci acarangge be.
 凡そ i と 書く べきもの を
 凡 當 寫 伊 者 (上 3b2-3)
- 30 gemu ni seme arara.
 みな ni と 書く
 皆 寫 脚 (上 3b3-4)
- 31 ni seme hūlara. gisurere ngge
 ni と 読む 話すこと
 讀 脚 說 脚 (上 3b4)
- 32 yooni ere songko..
 尽く この 模範
 悉 准¹ 此 (上 3b4-4a1)
- 33 duici. sunjaci ere juwe uju ci tulgiyen
 第四 第五 この 二 頭 を 除き
 除 第 四 第 五 此 二 頭 外 (上 4a2)
- 34 funcehe juwan ujui hergen i fejergi de.
 余った 十 頭の 文字 の 下 に
 其 餘 十 頭 字 下 (上 4a2-3)

- 35 i seme araci acarangge oci.
i と 書く べきもの ならば
應 寫 伊 者 (上 4a3-4)
- 36 gemu i seme arambi.
みな i と 書く
皆 寫 伊 (上 4a4)
- 37 i seme hūlambi. gisurembi..
i と 読む 話す
讀 伊 說 伊 (上 4a4-4b1)
- 38 aniya. ineggi. dobori niyenggiyeri. juwari. bolori. tuweri i jergi
年 日 夜 春 夏 秋 冬 の 類
年 日 夜 春 夏 秋 冬 (上 4b2)
- 39 hergen i fejergi de.
文字 の 下 に
等 字 下 (上 4b2-3)
- 40 eici isinaha. eici teisulehe sere jergi gisun bisirengge ohode.
或いは 至った 或いは 出会った という 類の 言葉 あるもの になった時
或 有 至 遇 等 句 (上 4b3-4)
- 41 de sere hergen baitalaraci tulgiyen
de という 文字 用いる 以外
用 德 額 外 (上 4b4-5a1)
- 42 funcehe isinaha. teisulehe sere jergi gisun akūngge oci.
余った 至った 出会った という 類の 言葉 ないもの ならば
其 餘 無 至 遇 等 句 者 (上 5a1-2)
- 43 gemu de sere hergen baitalarakū..
みな de という 文字 用いない
皆 不 用 德 額 (上 5a2-3)
- 44 duibuleci. eici tere aniya. tere ineggi. tere dobori de isinaha manggi.
例えば 或いは その 年 その 日 その 夜 に 至った 後
譬 如 或 寫 或 說 俟 至 某 年 某 日 某 夜 (上 5a3-4)

- 45 jai kimcime icihiyaki.
また 調べて 処理したい
再 行 酌 辦 俟 (上 5a4-5b1)
- 46 tere niyengniyeri. tere juwari. tere bolori. tere tuweri de teisulehe erinde.
その 春 その 夏 その 秋 その 冬 に 出会った 時に
遇 某 春 某 夏 某 秋 某 冬 (上 5b1-2)
- 47 jai toktobume gisureki seme arara. gisurere adali.
また 決裁し 言いたい と 書く 話す よう
再 行 定 議 (上 5b2-3)
- 48 ere uthai aniya. inenggi. dobori.
これ 即ち 年 日 夜
此 即 年 日 夜 (上 5b3-4)
- 49 niyenggiyeri juwari. bolori. tuweri sere hergen i fejergide.
春 夏 秋 冬 という 文字 の 下に
春 夏 秋 冬 字 下 (上 5b4-6a1)
- 50 de sere hergen baitalarangge..
de という 文字 用いること
用 德 額 者 (上 6a1)
- 51 aika isinaha. teisulehe sere jergi gisun akū.
もし 至った 出会った という 類の 言葉 なく
如 無 至 遇 等 句 (上 6a2)
- 52 šuwe fejergi gisun be sirabume arara. gisurere de oci.
直に 下に 言葉 を 繋ぎ 書く 話す 時 ならば
直 接 下 文 寫 說 者 (上 6a3-4)
- 53 gemu de sere hergen be baitalarakū..
みな de という 文字 を 用いない
皆 不 用 德 額 (上 6a4)
- 54 duibureci. eici niowanggiyan morin aniya dosika tukiyesi.
例えば 或いは 甲 午 年 合格した 舉人
譬 如 或 寫 或 說 甲 午 年 中 的 舉 人 (上 6a4-6b1)

- 55 niohon honin aniya dosika dosikasi.
乙 未 年 合格した 進士
乙未年中的進士(上 6b1-2)
- 56 tere aniya tere biyai ice de wesimbuhede.
その 年 その 月の 一日に 上奏したので
某年某月初一日奏(上 6b2-4)
- 57 ineku inenggi hese saha sehe..
本 日 勅旨 分かった と言った
本日奉旨知道了欽此(上 6b4-7a1)
- 58 erei jalin gingguleme wesimbuhe.
このため 謹んで 奏上した
爲此謹奏(上 7a1-2)
- 59 erei jalin gingguleme alibuha seme² arara gisurere adali.
このため 謹んで 上申した と 書く 話す よう
爲此上呈(上 7a2-3)
- 60 ere gemu aniya. inenggi.
これ みな 年 日
此皆年日(上 7a3)
- 61 jai jalin sere. hergen i fejergide.
また ため という 文字 の 下に
及爲字下(上 7a3-4)
- 62 de sere hergen baitalarakū.
de という 文字 用いない
不用 𠄎 字(上 7a4)
- 63 ne yabubure kooli durun..
今 行われる 規 則
現行式様(上 7b1)
- 64 han i araha ubaliyambuha dasan i nomun de henduhengge.
王の作った 翻訳した 政の 経 に 言ったこと
御製繙譯書經有曰(上 7b2)

- 65 **aniya biyai dergi inenggi.**
 正 月 の 上 の 日
 正 月 上 日 (上 7b3)
- 66 **wen dzu han i juktehen de duben be alime gaiha sehebi..**
 文 祖 王 の 廟 で 終 わり を 受 け 取 っ た と 言 っ て い る
 受 終 于 文 祖 廟 (上 7b3-4)
- 67* **ere gisun šūn³ han i kooli i fiyelen de bi..**
 この 言 葉 舜 王 の 経 典 の 章 に ある
 語 在 舜 典 (上 7b4)
- 68 **han i araha ubaliyambuha irgebun i nomun de henduhengge.**
 王 の 作 っ た 翻 訳 し た 詩 の 経 に 言 っ た こ と
 御 製 繙 譯 詩 經 有 曰 (上 8a1)
- 69 **inenggi elben ganambi.**
 昼 茅 取 り に 行 く
 晝 爾 于 茅 (上 8a2)
- 70 **dobori futa murimbi sehebi.**
 夜 繩 なう と 言 っ て い る
 宵 爾 索 綯 (上 8a2)
- 71* **ere gisun bin gurun i tacinun i fiyelen de bi..**
 この 言 葉 豳 国 の 歌 謠 の 章 に ある
 語 在 豳 風 (上 8a2)
- 72 **enduringge tacihiyan be neileme badarambuha bithede henduhengge.**
 聖 論 を 解 説 し 広 げ た 書 に 言 っ た こ と
 聖 論 廣 訓 有 曰 (上 8a3)
- 73 **damu jobošorongge.**
 た だ 憂 え る こ と
 所 慮 (上 8a4)
- 74 **jeku ambula bargiyaha aniya.**
 穀 物 多 く 収 穫 し た 年
 年 穀 豊 登 (上 8a4)

- 75 embici isibume asarara be gūnirakū.
 或いは 送って 蓄えるのを 考えず
 或 忽 於 儲 蓄 (上 8a4-8b1)
- 76 suje boso elgiyen baha ucuri.
 絹 布 豊かに 得た 時
 布 帛 充 贍 (上 8b1-2)
- 77 embici mamgiyame fayame baitalara oci.
 或いは 贅沢して 浪費して 使った ならば
 或 侈 於 費 用 (上 8b2)
- 78 malhūšarakū ufaracun.
 儉約しない 過失
 不 儉 之 弊 (上 8b3)
- 79 kicehekū ci encu akū sehebi..
 努力しないのと 変わり ない と言っている
 與 不 勤 等 (上 8b3-4)
- 80* ere gisun usin nimalan be ujelefi. eture jetere be tesubure hacin de bi..
 この 言葉 農 桑 を 重んじ 衣 食 を 満たす 条 にある
 語 在 重 農 桑 以 足 衣 食 (上 8b4)
- 81 geli henduhengge.
 また 言ったこと
 又 曰 (上 9a1)
- 82 suwei geren cooha irgen šumin dobori kimcime seolefi.
 君達の 多くの 兵 民衆 深い 夜 仔細に 思い
 爾 兵 民⁴ 清 夜 自 思 (上 9a1-2)
- 83 mini gūnin de acabuci acambi sehebi..
 私の 考え に 合わせる べき と言っている
 其 咸 體 朕 意 (上 9a2-3)
- 84* ere gisun jeku caliyān be wacihiyafi
 この 言葉 錢 糧 を 片付けて
 語 在 完 錢 糧 (上 9a3)

- 85* hafirame bošobure ba akū obure hacin de bi..
 締め付け 催促することなくする 条にある
 以省催科(上9a3)
- 86 han i araha julgei šu fiyelen i šumin buleku bithede henduhengge.
 王の作った昔の文章の深い鏡書に言ったこと
 御製古文淵鑿有曰(上9a4)
- 87 niyengniyeri sonjome abalame.
 春 選んで 狩りをし
 春蒐(上9b1)
- 88 juwari usin i jalin abalame.
 夏 農のため 狩りをし
 夏苗(上9b1-2)
- 89 bolori wame abalame.
 秋 殺して 狩りをし
 秋獮(上9b3)
- 90 tuweri kame abalame.
 冬 囲んで 狩りをし
 冬狩(上9b3)
- 91 gemu usin i šolo de baita be deribumbi gisun..
 みな 農の暇に 事を 起こす 言葉
 皆於農隙以講事也(上9b3-4)
- 92* ere gisun lu gurun i dzang hi be
 この言葉 魯国の 臧僖伯
 語在魯臧僖伯(上9b4)
- 93* nimaha butara be tuwanara jalin tafulara fiyelen de bi..
 魚 獲るのを見に行くため 諫める 章にある
 諫觀魚(上9b4)
- 94 ereci wesihun udu meyen gemu aniya. inenggi. dobori
 これより 上の 何 段か みな 年 日 夜
 以上數段皆年日夜(上10a1)

- 95 niyengniyeri. juwari. bolori. tuweri.
 春 夏 秋 冬
 春夏秋冬 (上 10a1-2)
- 96 jai jalin sere hergen i fejergide.
 またためという文字の下
 及爲字下 (上 10a2-3)
- 97 de sere hergen baitalarakū.
 de という文字 用いない
 不用 儼字 (上 10a3)
- 98 yargiyan temgetu..
 実際の 証拠
 確 據 (上 10a4)
- 99 manju gisun dorgide.
 満洲 語 中で
 清 語 内 (上 10b1)
- 100 be. me. ci. fi i jergi untuhun hergen umesi labdu.
 be me ci fi の類の 虚 字 とても 多い
 儼 墨 儼 伊 等 虚 字 甚 多 (上 10b1-2)
- 101 umai jorihakū bime.
 全く 指示しない でいて
 在 所 不 論 (上 10b2)
- 102 damu i. ni. de sere udu hergen be tucibume araha.
 ただ i ni de という 何 文字か を 出して 書いた
 惟 舉 伊 脚 儼 數 字 (上 10b3)
- 103 ne yabubure kooli durun be alhūdakini sehe dade.
 今 行われる 規 則 を 手本にすればよい と言った 上に
 既 以 現 行 格 式 爲 法 (上 10b3-11a1)
- 104 geli nomun. tacihiyan be yarufi dahin dabtan i
 また 經 訓 を 導いて 繰り 返して
 而 又 引 經 據 訓 往 復 (上 11a1-2)

- 105 getukeleme tucibuhengge ai gūnin. seci.
 明らかに 出したこと 何の 考え と言えば
 發明 其意 何居 (上 11a2)
- 106 cohome gehun iletu bolgo getuken.
 つまり はっきり 明らか 正確 明確
 蓋 因 彰 明 皎 著 (上 11a3)
- 107 niyalma tome gemu sarangge oci.
 人 ごとに みな 知るもの ならば
 人 所 共 知 者 (上 11a3-4)
- 108 dahime dalhidara be baiburakū.
 再び 煩わすの を 必要としない
 毋 庸 重 贅 (上 11a4)
- 109 dubifi kimcirakū. ja i farfaburengge be.
 慣れて 調べず 容易 に 乱されるもの を
 忽 焉 不 察 易 於 混 淆 者 (上 11b1)
- 110 emke emken i jorime tucibufi.
 一つ 一つ と 指し 出して
 一 一 指 出 (上 11b1-2)
- 111 sonjofi baitalara de belhehe.
 選び 用いるの に 備えた
 以 備 採 擇 (上 11b2)
- 112 eiterecibe mentuhun gūnin be majige akūmbufi.
 総じて 愚かな 考え を 少し 尽くして
 無 非 稍 盡 鄙 懷 (上 11b3)
- 113 tašaraha jurcenjehe babe tuwancihiyaki sere turgun..
 誤った 違背した 所を 正したい と思う ため
 正 其 錯 謬 (上 11b4)
- 114 inu urhuhe babe niyecetere.
 また 偏った 所を 補う
 亦 補 偏 (上 12a1)

- 115 eyehe tacin be maribure jalin.
 頽廢した 教え を 戻す ため
 救 弊 之 (上 12a1-2)
- 116 emu erinde deribuhebi dere..
 一 時に 始めている だけだ
 一 端 耳 (上 12a2)
- 117 tere anggala i sere hergen. ni sere hergen fudarame forgošobure babe.
 その 上 i という 文字 ni という 文字 反対に 転換する 所を
 況 伊 脚 顛 倒 (上 12a2-4)
- 118 halame dasara be gūnirakūngge.
 改め 変えるの を 思わないこと
 不 思 改 正 (上 12a4)
- 119 ele manju gisun i cilcin..
 一層 満洲 語 の 疵
 尤 爲 清 語 之 疵 (上 12b1)
- 120 uthai berten bisire saikan gu be.
 即ち 汚れ ある 美しい 玉 を
 即 如 美 玉 有 瑕 (上 12b1-2)
- 121 yongkiyaha gu seci ojarahū adali..
 完備した 玉 と言うこと できない よう
 不 得 謂 之 完 璧 (上 12b2)
- 122 manju gisun de cilcin bici.
 満洲 語 に 疵 あると
 清 語 帶 疵 (上 12b3)
- 123 inu narhūn sain ojoro be erehunjeme banjinarakū.
 また 正確で 良くなるの を 望んで 実現しない
 亦 難 望 其 精 通 (上 12b3-4)
- 124 manjurame muteci tetendere.
 満洲語を話すこと できる からは
 既 能 清 語 (上 12b4-13a1)

- 125 gulhun muyahūn ojoro be kicerakū oci.
 完 全 になるの に 努めない ならば
 不 務 完 全 (上 13a1)
- 126 ambula hairacuka..
 大いに 惜しむべき
 深 爲 可 惜 (上 13a2)
- 127 unenggi terei holbobuhangge oyonggo be safi.
 誠に それの 関係したもの 重要なの を 知り
 誠 能 知 其 所 關 緊 要 (上 13a2-3)
- 128 ere bithe be dahin dabtan i fuhašame tuwafi.
 この 書 を 繰り 返して て 究めて 読み
 將 此 編 反 覆 翻 閱 (上 13a3-4)
- 129 tengkime ejefi.
 切実に 記憶し
 切 實 記 憶 (上 13a4)
- 130 erindari gūnin tebufi kimcime.
 折に触れ 考え 留め 調べて
 時 加 檢 點 (上 13a4)
- 131 tašarara jurcenjehe babe tuwancihiyaci.
 誤る 違背した 所を 正すならば
 正 其 錯 誤 (上 13b1)
- 132 kiceme genehei inenggi goidaha manggi.
 努力して 行ったまま 日 久しくなった 後
 用 功 日 久 (上 13b1-2)
- 133 ulhiyen i elehun de isinafi.
 次第 に 平然 に 至り
 漸 進 自 然 (上 13b2)
- 134 gisun eden narhon akū sere basucun ci guweci ojoro teile akū.
 言葉 不完全 正確 でない という 謗り から 免れること できる だけ でなく
 不 特 可 免 殘 缺 不 精 之 譏 (上 13b3-4)

- 135 umesi urehe bime.
 大変 成熟して いて
 並 可 成 熟 練 (上 13b4)
- 136 cilcin akū sere maktacun bahaci ombi.
 疵 ない という 称賛 得ること できる
 無 疵 之 美 (上 14a1)
- 137 yala sain akū semeo..
 本当に 良く ない と思うか
 豈 不 休 哉 (上 14a2)
- 138 ningguci ujui nadanju juwe hergen i uncehen i teisu hashū ergide.
 第六 頭の 七十 二 文字 の 尾 に向かつて 左 側に
 第六 頭 七 十 二 字 尾 左 (上 14a3-4)
- 139 gemu juwe tongki bi.
 みな 二 点 ある
 皆 有 雙 點 (上 14a4)
- 140 geli ere juwe tongki akū dehi hergen i dorgi.
 また この 二 点 ない 四十 文字 の 内
 又 有 無 此 雙 點 四 十 字 内 (上 14b1-2)
- 141 manju gisun de holbobufi.
 満洲 語 に 関係し
 關 係 清 語 (上 14b2)
- 142 kemuni arara orin hergen be.
 いつも 書く 二十 文字 を
 不 時⁵ 書 寫 者 二 十 字 (上 14b2-3)
- 143 ejere de umesi mangga ofi.
 覚えるの に 大変 難しい ので
 殊 難 記 憶 (上 14b3-4)
- 144 tuttu nadata hergen ninggun gisun i ucun banjibuha.
 そこで 七 ずつ 文字 六 句 の 歌 作った
 是 以 編 作 七 言 六 句 之 歌 (上 14b4-15a1)

- 145 erebe ureme ejehe de.
これを 熟して 覚えた 時
將 此 記 熟 (上 15a1)
- 146 uthai ilgama mutefi tašaraburakū ombi..
即ち 弁別すること できて 誤らなく なる
則 能 辨 別 無 差 矣 (上 15a1-2)
- 147 nadata hergen ninggun gisun i ucun..
七ずつ 文字 六 句 の 歌
七 言 六 句 歌 (上 15a3)
- 148 e 字 爲 始 fu⁶ 其 終 (上 15a4)
- 149 ne se de le me ce 同 (上 15a4-15b1)
- 150 be pe je ye 與 hū 類 (上 15b1-2)
- 151 ke ku 二 句 一 様 通 (上 15b2)
- 152 再 加 fe 來 二 十 整 (上 15b2-3)
- 153 毋 庸 雙 點 尾 皆 弓 (上 15b3-4)

<付記>

全 22 回、約 2 年にわたって連載してきた『『一百條』・『清文指要』対照テキスト』は、今回をもって終わる。落合守和先生の演習で原刊本系の『清文指要』を読み始めた頃は、その中国語の面白さには目を見張ったものの、満洲語部分の字形の崩れと誤刻の多さに心底辟易して、一生かかってもこのテキストを全部読み通すことはできないだろうと思っていたのだが、先に公刊した『新刊清文指要』を参照軸とすることによって、何とか最後までたどり着くことができた。思えばこの書物に出会ってからもう 25 年になる。

連載を続けているうちに記述方針にずれが生じた可能性があるなので、まずは早い機会に全体を見直して相応の修正を加え、満洲語と中国語の語彙索引、現

存版本に関する解説を付した上で、読者の利用に供することができればと考えている。

-
- ¹ 准：雙峯閣本は「準」に作る。
 - ² seme：大西堂本・三槐堂本は sere に作る。
 - ³ šün：雙峯閣本・三槐堂本は šai に作る。
 - ⁴ 民：雙峯閣本はこの一字を欠く。
 - ⁵ 時：大西堂本は「特」に作る。
 - ⁶ fu：雙峯閣本は de に作る。